

令和4年度みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名： 西讃地区環境にやさしい農業推進協議会

都道府県名： 香川県 対象品目： レタス

策定年月： 令和5年3月 目標年次： 令和9年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

環境負荷軽減の取組

○	化学農薬の使用量低減	○	化学肥料の使用量低減		有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
	温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)		温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)		温室効果ガスの削減 (CO2、N2Oの排出削減)

第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

1 事業実施地域

香川県観音寺市、三豊市

2 事業実施地域の現状

管内のレタス栽培は、取組当初から60年以上が経過し、レタスビッグベイン病などの土壌病害を始めとした病害虫被害による減収が大きな問題となっている。ビッグベイン病に対しては、定植時の薬剤かん注処理と耐病性品種を組み合わせた対策が取られているが、菌密度が高いほ場では十分でなく栽培を困難にしている。

長年の堆肥や化学肥料連用による土壌化学性の偏りは病害発生の一因と考えられている他、土壌中に蓄積している成分を過剰に施肥して環境負荷となっている可能性がある。

レタス栽培は雑草発生や土壌による収穫物の汚染を防ぐためにポリマルチ被覆して行っているが、収穫終了後はマルチを除去して次作の作付けを行う必要があり、この除去作業と廃プラスチックの保管、処分が労力の負担となっている。

厳寒期に生育、収穫する作型ではプラスチックフィルムによるトンネル被覆による保温が必要であるが、この被覆作業は11～12月に集中するため労力の負担や作業遅延の原因となっている。

3 事業実施地域を目指すべき姿

レタスビッグベイン病の多発ほ場において有機物を用いた土壌還元消毒を行い、殺菌剤の土壌かん注の使用量を削減する。

土壌分析によって化学性の偏りを把握して過剰な施肥を削減するとともに、局所施肥によって施肥量を削減し環境負荷の軽減と肥料コストの低下を図る。

生分解性マルチ利用によってマルチ除去作業時間を削減するとともに、一部の作型でべたがけを利用してトンネル被覆作業が集中する時期の労力を軽減し、作型が集中する時期の作業遅延を解消して生産の安定を図る。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	土壌還元消毒 土壌分析 局所施肥	定植時の殺菌剤土壌かん注1回→0回 土壌中に蓄積した過剰な肥料の施用量削減 投入量の多い主要な基肥の施肥量20%削減
省力化技術	生分解性マルチ べたがけ	マルチ除去時間3.9時間/10a→0時間 トンネル被覆作業13時間/10a→4時間(一部の作型)

イ 現在の栽培体系

項目	作業時期															備考																						
	4月			5月			6月			7月			8月				9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
作業段階	■									定植				△	収穫	■																						
技術	■												定植後殺菌剤灌注	■																								
																マルチ除去	■																					
																トンネル被覆	■																					



ウ グリーンな栽培体系

項目	作業時期															備考																									
	4月			5月			6月			7月			8月				9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
作業段階	■												定植				△	収穫	■																						
技術	■												土壌分析	■			局所施肥	■												土壌分析に基づく施肥 局所施肥による施肥量低減 有機物(フスマ)による土壌消毒											
																			土壌還元消毒	■						マルチすき込み	■												生分解性マルチすき込み		
																						トンネル被覆	■																		トンネル被覆作型のうち 12月収穫作型のべたがけ
																									べたがけ	■															

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

指標		年度	R4 (現状値)	R9 (目標値)	増減	備考
1	土壌還元消毒による化学農薬使用量の低減		トップジンM灌注 1回	トップジンM灌注 0回	▲100%	現状値 豊南地区レタス部会 栽培基準より
	単位	回/1作				
2	土壌分析による化学肥料使用量低減		苦土石灰またはサンライム 120kg	過剰な場合石灰資材を使用しない 0kg	▲100%	現状値 豊南地区レタス部会 栽培基準より
	単位	kg/10a				
3	局所施肥による化学肥料使用量低減		らりるれ専用肥料(化成率35.2%) 100~200kg	らりるれ専用肥料(化成率35.2%) 80~160kg/10a	▲20%	現状値 豊南地区レタス部会 栽培基準より
	単位	kg/10a				

イ 省力化目標

指標		年度	R4 (現状値)	R9 (目標年次)	増減率(%)	備考
1	生分解性マルチ		マルチ除去時間 3.9時間	マルチ除去時間 0時間	▲100%	検証農家からの聞き取りによる試算
	単位	時間/10a				
2	べたがけ		被覆作業時間 13.3時間	被覆作業時間 4.2時間	▲68%	作業時間測定による試算
	単位	時間/10a				

ウ 普及を目指す面積

(単位: ha)

指標		年度	R4 (現状値)	R9 (目標値)	増減率(%)	備考
対象品目全体の作付面積			305	310	2%	
うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積			2.36	50	2019%	
普及割合			1%	16%		

第3 関係者の役割分担及び取組内容

構 成 員	役割分担及び取組内容				
	令和5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標年次)
香川県 (普及組織：西讃農業改良普及センター)	←		グリーンな栽培体系の周知・ 情報発信 栽培マニュアルに基づく技術 指導		→
JA香川県地区営農セン ター	←		普及センターと連携して実施		→